

第2回那覇空港調査PI評価委員会
議事概要

1 日時 平成17年11月16日(水) 13:30~15:30

2 場所 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ 6階 ニライの間

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

琉球大学名誉教授

上間 清

弁護士

大城 浩

フリージャーナリスト

崎山 律子

淑徳大学国際コミュニケーション学部客員教授

廻 洋子

(2) 那覇空港調査連絡調整会議からの参加

内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾空港指導官

酒井 洋一

国土交通省大阪航空局飛行場部次長

梅野 修一

沖縄県企画部参事

傍士 清志

(3) 内閣府沖縄振興局からの参加

内閣府沖縄振興局振興第三担当専門官

篠 良一

4 次第

(1) 開会

(2) 委員及び出席者紹介

(3) 議事

議事1 PI(ステップ1)実施報告について

資料1 那覇空港の総合的な調査に係るPI(ステップ1)実施報告書

資料2 那覇空港PI活動(ステップ1)の実施状況

資料3 那覇空港の総合的な調査に係るPI(ステップ1)に寄せられたご意見

事務局より資料説明後、質疑が行われた。

広報の方法や、PI実施主体の自己評価について評価・助言を受けた後、PIステップ1については概ね妥当との評価を受けた。

議事2 その他

事務局より今後のスケジュールを説明後、質疑が行われ、広報紙の有効利用等の助言を受けた。

(4) 閉会

5 主な発言内容（順不同）

（1）P I（ステップ1）実施報告について

（委員）アンケート結果をみると圧倒的に男性が多い。説明会の持ち方など、女性が参加しやすい工夫が必要では。

（事務局）説明会を開催するにあたり、空港関係者や旅行業界の方を中心に呼びかけを行ったが、参加した方のほとんどが男性であった。できるだけ女性の意見を頂けるよう工夫していきたい。

（委員）新聞広告では、情報を詰め込みすぎず、もう少しビジュアル的に引きつける工夫が必要。

（委員）広報するときには伝えたいメッセージを、いつ、どこで、どのように言うか等、広報の構造（ストラクチャー）を立てる必要がある。メッセージを統一し、メディア特性を考慮した広報であれば、効率がよかったのではないか。

（事務局）今回の経験を生かし、もう少し戦略性をもって実施していきたい。

（委員）「P I活動は適切に行われたか」の評価視点について、計画どおりにP I活動が実施されたかという意味では評価できる。「提供した情報が周知されたか」、「提供した情報が理解されたか」の評価について、周知や理解には様々な段階があるので、引き続き努力したほうがよい。「幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか」については、よくやっていると評価できる。

（委員）どのくらい周知・理解されたかについては、性別、年齢層、職業層等で無作為にサンプリングし、統計的なアプローチを取り入れる方法もある。

（事務局）県民全体にどれほど浸透したかを把握する必要がある。今回のサンプリング以外のアプローチとして、統計学的手法を含めて検討していく。

（委員）よく自由意見が出ており、内容についても密度が濃いように感じる。そういった意味で、関心をもっている方からの意見の収集はうまくいったのではないか。今後もこの方法を推し進めていってもよい。

（委員）P Iには万機公論に決すべし、という部分がある。普段は考えていない人に、自分のこととして考えていただく、というような意味で、もう少し底を広げることが出来たらなおよい。

（委員）実施にかかった時間、エネルギー、お金と、P Iの実施結果を勘定して、次ステップではどの手法を使うかなど整理してはどうか。

（委員長まとめ）P I活動については十分にやっている印象を受ける。今後は5W1Hを効果的に、きめ細かく展開してほしい。評価について、報告書の内容で概ね妥当であるが、指摘箇所を整理し、評価の文章等まとめてほしい。

（2）その他

（委員）P Iステップ3では滑走路増設の検討等まで展開するが、P Iで出てきた課題と現在進行中の空港整備計画との統合はどうなっているのか。

（事務局）今の段階は2本目の滑走路について検討する段階ではない。一部メディアでは2本目の滑走路をどうするか、といったことが報道されているが、P I

実施主体としては、あくまでP Iのステップに沿って順番に議論を積み上げていく。

(委員) 広報紙での広報が一番効果を出している。今後は他の市町村にも掲載することを検討してはどうか。

(事務局) 広報紙の効果が予想以上に大きかった。次ステップに活かしていきたい。